

使い手から 作り手へ



《園芸業界》へのメッセージ

人と出会い、つながって 花とみどりのまちをつくりましょう

(一社) 日本ハンギングバスケット協会

公認講師 **古賀 重子さん** (福岡県うきは市)



古賀さん
の作品



吉井町商店街の装飾。若い世代の
店主に引き継がれている



現在は4つの教室を定期開催。安価な花苗でも
華やかに仕上げるのが腕の見せどころ



植木のハンギングバスケット。適切
管理で、四季の葉色が長く楽しめる

古賀重子さんは、植木産地・田主丸に隣接するうきは市吉井町を拠点に園芸教室の講師として活躍しながら、まちづくりにも長く関わっている。活動が続けられた理由には、植物を愛する仲間や業界の協力が欠かせなかったという。(高木)

* ハンギングバスケットをきっかけに

1990年、主人が植木生産・植栽工事の(有)総合緑化コガキューを設立しました。夫婦で一生懸命働いて、息子3人も今は造園やアーボリスト※の仕事をしています。でも、順風満帆ではありませんでした。会社設立後、景気は下がるばかり。「私も何かしなければ」と始めたのがハンギングバスケットでした。

ハンギングバスケットを知ったのはイングリッシュガーデンが人気になりはじめた頃。その美しさにくぎ付けになって、「私もやってみよう」と。試行錯誤しながら作品をつくっていましたが、夫が「まちのどこかに掛けて、みんなに見てもらってはどうか」とアドバイスをくれたんです。

そこで当時の町長に話をし、町内で一番の繁華街の交差点に掛けさせてもらうことになったんです。毎日水やりをしていると、「こんな花飾りがあるのね」「私にも教えてほしい」という声が増えてきました。教室を本格的にやることになったのは、これがきっかけです。

その頃、県で市町村の花飾りの事業に助成金を出すことが決まり、吉井町も選ばれました。交差点の作品を見てくれてい

た人の中に町役場の方もいたので、私も商店街の有志や市の方と協力してハンギングバスケット装飾に協力することになったんです。この事業は20年も続いています。

* 地域に合うものを、地域の人とともに

商店街の花飾りはもちろんですが、教室をやっても地域性は意識します。YouTubeやSNSでは豪華な作品が紹介されていますけど、田舎町で主にリタイアした方が参加する教室苗・土・鉢代込みで3,500円程度が基準で、高くても5,000円まで。高価な苗は使えません。

教室の苗の手配には、長く付き合っている地元の園芸店生産者が協力してくれています。用土メーカーとは、微量要素や緩効性肥料をブレンドした土を共同開発して、安価に提供してもらっています。鉢だけはおしゃれで安価なレジンプットがいいと思いますが、地元業界の方たちと連携ができれば、みんなに不満はないんですよ(笑)

最近、福岡県の樹芸組合に依頼されて、植木だけではないハンギングバスケットにも取り組んでいます。植木生産者の中には、ポットに4本植えだったハツユキカズラを5本にして、リウムを出すような仕立てをしてくれる方もいます。そんなうに、それぞれの地域で“作る人”と“使う人”がつながって花とみどりはもっと広がるのではないのでしょうか。

※樹木の診断や高所での剪定などをするスペシャリスト